

広沢憲治さんに天文功労賞

渡辺誠

広沢さんが2019年度日本天文学会天文功労賞（長期的な業績）を受賞されました。授賞理由は「50年にわたる変光星の観測及び観測支援活動」です。おめでとうございます！
受賞理由を日本天文学会のホームページから以下に引用させていただきます。

（以下、引用）

広沢憲治氏は小中学校の教員を勤めながら、長年にわたりアマチュアとして変光星の観測に取り組んで来た。その開始は1970年まで遡り、日本変光星観測者連盟VSOLJのデータベースでは、2019年末までで22万を超える広沢氏のデータが公開されている。観測対象は激変星やミラ型変光星、こと座RR型変光星など多岐にわたり、永く日本国内のアマチュア変光星観測をリードしてきた。

他者の観測支援活動も1970年代から取り組んでおり、情報の流通が少なかった当時、自ら収集した情報や寄せられたものを適切に配布・公開する重要な役割を積極的に果たした。例えば、発見された新星の確認観測を行ない、その情報を自ら作成した観測用星図とともに日本変光星研究会の変光星速報としてハガキや封書で会員に送付したり、日本人アマチュアの観測データをIAU CBAT（国際天文学連合天文電報中央局）に送付したりといった活動を続けている。

変光星の動向を広く普及するために、1977年からは月刊天文ガイド誌に変光星の近況報告を掲載し、現在も継続している。この記事では、観測に興味を持った方の質問に答えるために、住所やメールアドレスなどを公開し、丁寧なやり取りを行なっている。各種の会合などで初心者への指導をし、その観測結果をとりまとめてVSOLJに報告もしている。時代に合わせて形を変えながら、広沢氏の普及活動はさらに広がってきた。1990年代にはそれまでの日本の変光星観測をデータベース化するプロジェクトが始まり、企画の推進に尽力するとともにデータの入力などの実作業も行ない、現在も古いデータのチェックを行うなど、多大な貢献を果たした。また、アマチュアにも入手しやすいデジタルカメラでの変光星観測に早い段階で取り組んで実績を示し、デジカメの観測への使用にはずみをつけた。

組織的な活動としては、東亜天文学会の変光星課長や日本変光星研究会の事務局も永く務めてきている。特に、毎年600星以上のミラ型変光星や半規則型変光星の極大予報を作成して公開し、観測を奨励していることは特筆に値する。これらの天体は不規則要素が多く極大日の予報が難しいが、その予報の精度維持に努めている。

以上のように、広沢氏による50年にわたる変光星の観測と観測支援の功績は、本会天文功労賞(長期部門)の受賞に十分値するものと考え、ここに表彰する。